春の喜びを感じさせる授業びらき
―低学年における詩の学習を通じて―

千葉大学教育学部附属小学校
平田　園

はじめに

四月はどの児童も期待と不安を胸に、緊張しているものである。だからこそ春の明るさ・あたたかさに気持ちを乗せて友達と一緒に声を出し、春を感じられる活動をすることで楽しくスタートさせたい。

一　教科書を開くとき

国語の教科書との初めての出合い。これから学ぶワクワク感を大切にしたい。そのため教科書を開くときのにおいを感じさせるようにしている。これは、四月の初めにしか感じられない教科書の印刷のにおいである。みんなで心を合わせて開き、ゆっくりと大きく息を吸って春を感じるのである。

その後、丁寧に折り目をつけさせながら、目次のページを開く。「この話が読みたい。楽しそう！」と会話をしながら、一年間どんな話と出合うのかを確認する。漢字のページも確認し、「たくさんの漢字が書けるようになる」ということを楽しみにさせる。

二　国語のノート一ページ目は、春のページ

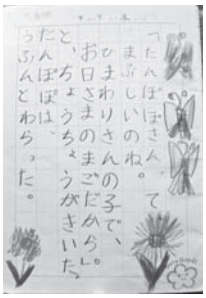
毎回開くノートだからこそ一ページ目は明るく楽しいページであってほしい。私はいつも「春の詩」を扱うことにしている。『たんぽぽ』（まど・みちお）の詩を使い、春のページをつくった。

①**春のイメージを発表させる。**「明るい」「あたたかい」「うれしくなる」というように全員に発表させる。発表したらみんなで拍手をおくる。声に出して発表することは楽しい、友達に聞いてもらえることは嬉しいという経験をさせる。

②**イメージをもとに詩の音読をさせる。**友達と顔を見合わせながら笑顔で音読したり、窓の外の春空を見ながら音読したり、詩の内容に合う動きを入れて音読したりさせる。

③**ノートに視写させる。**教師が黒板に少しずつ句読点の位置等を確認しながら書き、視写させる。書き終わったら詩から想像する絵を書かせる。

④**まとめの音読をさせる。**書き終えた児童から黒板の前にノートを開いて飾っていく。全員が書き終えた後、みんなでノートを眺めながら音読をさせる。



おわりに

この活動を行うことで、春の喜びを感じさせることができた。授業後、ノートを教室の後ろに飾ると教室が一気に明るくなった。そして国語の時間にノートを開けるたびに明るくあたたかい春の詩のページが見られるのである。

「春の詩」は、春の喜びを感じさせる恰好の教材である。

ひらた　その　現在は千葉大学大学院で佐藤宗子教授のもと、児童文学や、読書教育について研究をしている。